

一般社団法人 群馬県医療ソーシャルワーカー協会

めぐもり群馬

2024年秋号



Index

02.副会長 ぞ挨拶

03.令和6年度 定時社員総会

04.令和6年度 第1回全体研修

05.令和6年度 学生向け研修

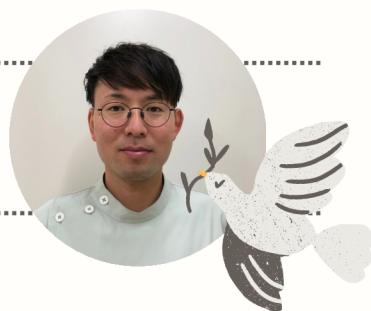
06.人権擁護・身元保証委員会 主催研修

07.災害支援対策委員会 主催研修



Greeting

副会長 ご挨拶



日頃より、関係機関の皆さまにおかれましては、当協会活動及び医療ソーシャルワーカーに対して、ご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

2024年も半ばを過ぎて、当協会の活動も活発に行われております。その中からいくつかご報告いたします。

5月11日に当協会の定期総会が、群馬県総合福祉センターを会場に開催されました。新型コロナウイルス感染症の流行後は感染を防止するためにオンラインで実施しておりました。今回3年振りの対面での開催となり、会場内を眺めていると会員同士の交流が盛んに行われておりました。顔が見える会員同士の交流により、さらに当協会の活動が盛り上がることを期待します。

6月15日～16日にかけて、第72回公益社団法人日本医療ソーシャルワーカー協会全国大会・第44回日本医療社会事業学会が大分県で開催されました。医療ソーシャルワーカーが参加する学会の中で最も大きな学会です。そのうち、当協会からも複数の会員が発表を行いました。職場組織において、会員は日頃から貴重な実践を行っております。

社会福祉専門職として、その貴重な実践について多くの医療ソーシャルワーカーに知ってもらうことは重要です。これからも積極的な会員の実践報告があることを願っております。最後に、7月20日にソーシャルワーカーデーを開催しました。私たちソーシャルワーカーの活動の推進と普及する活動で、当協会の毎年恒例のイベントです。昨年、群馬県社会福祉士会、群馬県精神保健福祉士会、当協会の3つの団体でソーシャルワーカー連盟を設立後、初の開催となりました。今回「災害支援とソーシャルワーク」と題した内容で、今年1月に発生した能登半島地震や近年発生した災害におけるソーシャルワーカーの活動について、実践者や被災当事者の講演、連盟の各団体の取り組みに関する内容でした。今後も、ソーシャルワーカーデーをはじめとした連盟としての活動が発展するよう取り組みを行っていききたいと思います。

これから下半期の活動が予定されております。当協会の広報誌にて報告させていただきますのでよろしくお願いいたします。

今後とも、ご指導ご鞭撻をいただきますよう、お願い申し上げます。

一般社団法人 群馬県医療ソーシャルワーカー協会
副会長 高橋 紀貴（高崎総合医療センター）

05月11日

GUNMA
MSW
ASSOCIATION

一般社団法人

群馬県医療ソーシャルワーカー協会

定 時 社 員 総 会

一般社団法人 群馬県医療ソーシャルワーカー協会

第5回 定時社員総会

- ・ 議決権のない方は最後尾にお座りください
- ・ 議決権のある方は前方からお座りください
- ・ 議案書をお忘れの方、受付にありますQRコードで読み込んでください
- ・ 災害支援募金にご協力をお願いします



2024年5月11日（土）、当協会の定期総会が群馬県総合福祉センターを会場として開催されました。令和5年度の事業報告と、令和6年度事業計画に関する説明をさせていただき、会員の皆さまよりご意見をいただきました。今年は理事改選の年度のため、新体制となった理事の紹介を行いました。

永年会員表彰では、前会長中井正江氏をはじめ当協会の活動に寄与されてきた4名の会員の表彰を行いました。



当協会の代表的な活動である、委員会活動の紹介を行いました。委員会活動は会員が主体的に活動する機会のため、活動内容がわかりやすいよう工夫を凝らし紹介をしていました。特別企画として、元旦に発生した能登半島地震における当協会会員の活動の報告がありました。報告者より具体的な活動内容や経験談等の話がありました。参加者から派遣に関すること等活発な質問をいただきました。

最後は記念講演として、今年3月に群馬リハビリテーション病院を退職された宇野浩文氏より、当協会におけるスーパーヴィジョン体制を構築されてきた経緯や、ご自身の医療ソーシャルワーカーとしての経験やこれまでの歩みについて、我々に向けたエールを含まれた貴重なお話をいただきました。

3年振りの対面開催となり、会場内では久しぶりに会う会員や始めて対面する会員同士の交流が盛んにみられていました。



一般社団法人 群馬県医療ソーシャルワーカー協会
副会長 高橋 紀貴（高崎総合医療センター）

2024年度第1回

全体研修

診療報酬とソーシャルワーク

2024年6月29日土曜日に、「診療報酬とソーシャルワーク」をテーマに文京学院大学 准教授の篠原純史先生をお招きして研修会を実施しました。本研修は今年度はじめての研修となりましたが、診療報酬改訂年度であったことも影響してか参加者は47名と近年では比較的多くのご参加をいただきました。

診療報酬に社会福祉士が明記されたのは2006年。早18年が経過し、今や入退院支援加算をはじめとして多くの施設基準や各種加算で位置付けられています。入職が2006年以後の方は、診療報酬を元にした所属機関内立場の明確化、診療報酬に関連づけた臨床実践を行うことはもはや当たり前のことかと思えます。本研修ではこの“当たり前”が、そうではなかった頃から現在に至るまでの先輩方のマクロ実践の歴史、ソーシャルワークと診療報酬枠組みが起こす矛盾、ソーシャルワーカーが今後も診療報酬と付き合うために、今後必要となるであろう方向性について、幅広くお話いただきました。研修後アンケートにおいては「満足・概ね満足」と回答いただいた方が9割であり、また自由回答では「今後どのように診療報酬を見ていき、活用していくべきかその指南となった」というフィードバックがございました。研修内で「既存の枠組みの範囲でソーシャルワークを展開するのではなく、患者や家族に資する取り組みを診療報酬制度に反映させなければならない」との講師からお言葉もあったように、まさにテーマの「診療報酬とソーシャルワーク」について参加者の方へ多くの示唆を得ていただく機会を提供できた研修であったと振り返ります。

研修企画委員会では引き続き会員の皆さまはもちろん、非会員の方にも当協会の研修に興味関心を持っていただき、ご参加いただけるような研修の企画運営を行なっていきます。引き続きよろしくお願いたします。

7 / 7
sun
9:30-17:00

前橋赤十字病院
Japanese Red Cross
Maebashi Hospital.



学生向け研修

2015年より開始した「学生向け研修会」も途中コロナの影響で開催できない年もありましたが、今年で「第9回」を迎えることができました。

今年度は内容を大きく変更し、学生が参加しやすいよう「午前のみ」「午後のみ」「午前・午後両方」で募集する他、研修会場も初めて「病院」で開催。プログラムにおいては、現任SWからの実践報告を「急性期」「回復期リハビリ」「緩和ケア病棟」「在宅医療」の4分野に増やしお話いただきました。また、以前より要望が多かった「他大学生との交流機会」も短時間ではありましたが設け、同じSWを目指す学生同士の意見交換はとても刺激になったようです。そして、研修の最後には、実際の職場環境の1例として「病院紹介・見学」もしていただきました。毎年好評の「面接技術」では講義の他にロールプレイ・グループワークを行い、「現任SWへのインタビュー」では8名のSWにファシリテーターとして参加いただき、学生からのリアルな疑問にお答えいただきました。



受講者は「午前56名」「午後54名」。群馬県内の社会福祉士養成校3大学より、1年生が8名、2年生が9名、3年生が17名、4年生が22名と全学年からの参加があり活発な意見交換が見られました。アンケート内容からは「SWの仕事は常に人と人であるとおうことを実感した」「患者と長く付き合い一緒に目指す姿に惹かれた」「患者の希望と現実の難しさにジレンマがあることも分かった」「事例も含めた話を聞き、実際の職場の様子を見たことでMSW業務をよりイメージすることができた」「実習に向けての意欲が向上した」「MSWへの憧れがより強くなった」「来年度も開催してほしい」などの感想が見られ、研修の満足度も高い評価が得られました。本研修にご協力いただきました講師・協力員の皆様、会場を提供いただきました前橋赤十字病院の皆様、本当にありがとうございました。協会員の皆様とともに作り上げていく研修として、今後もより良い研修が開催できますよう研修企画委員会一同取り組んでまいりたいと思います。

研修企画委員会

齊藤 聖香（原町赤十字病院）

じんけんようご
みもとほしょう
主催研修

身寄りのない方への支援

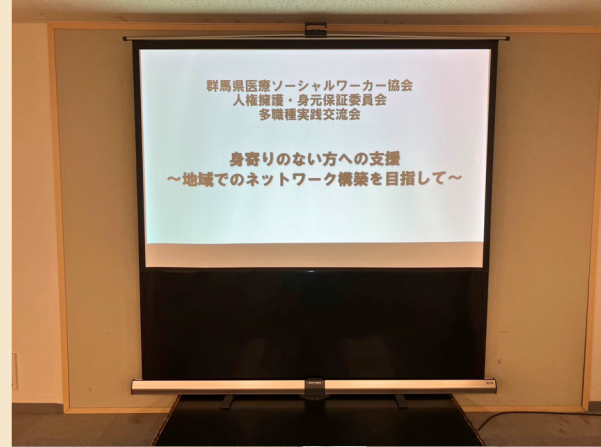
人権擁護・身元保証検討委員会では、身寄りのない方の権利擁護や関連する社会的課題等を取り上げながら活動しております。

昨年度は11月7日にオンライン研修として「身寄りのない方への支援について考える ～身寄りなし問題研究会の活動から学ぶ～」、3月16日に多職種実践交流会として群馬県社会福祉総合センターにて「身寄りのない人への支援 ～地域でのネットワーク構築を目指して～」の2回、研修会を開催しました。

多職種実践交流会は群馬県地域医療介護総合確保基金事業として、講師に新潟県で身寄りなし問題研究会の代表として活動をしている須貝秀昭氏を講師に招き、基調講演を行いました。また、医療機関・居宅介護支援事業所・行政よりそれぞれ実践報告をいただき、その後グループディスカッションを行いながら研修を聞いての感想や個々の立場で実践している事、課題に感じていること等共有を行いました。医療機関以外にもケアマネジャーや地域包括支援センター、行政に携わる方等、計32名の方に参加いただき、身寄りなし問題については医療機関だけでなく多機関・多職種が課題意識を感じているのだと再認識する場となりました。実際に参加した方からは、「新潟の取り組みを聞き、同じ地域のS山さんと、なんとかしなくちゃ感を共有できた」「なかなか行動には移せないの、刺激をもらった」

「講演・実践報告とも、身近に感じられ、グループワークもいろいろな意見・情報が得られた。」「身寄りなしの方の支援について、より深く考えることができた」といった感想をいただきました。身寄りなし問題への解決には地域全体で解決方法を考える必要があり、職種の壁を越え共に解決の道を模索するネットワーク構築の貴重な1歩となったと感じています。

これからも、事例検討や勉強会等を通じ、当委員会が権利擁護や身寄りなし問題を考えるきっかけづくりができるよう、活動していきたいと思っております。



一人権擁護・身元保証検討委員会
一戸美沙（高崎総合医療センター）

災害ソーシャルワーク

基礎研修を開催して

当会では会計年度に1回以上の災害支援に関する教育の場を設けることとしており、2024年3月2日に災害ソーシャルワーク基礎研修を開催しました。

昨年度まではコロナ禍であったためオンライン研修で行っていましたが、コロナが5類へ移行したことに伴い群馬県社会福祉総合センターにおいて集合型の研修を5年ぶりに行いました。

過去5年間の研修では災害支援を実践した方、している方に講師依頼させていただき経験を聴く機会としていましたが、今回は当会新人研修で行っている「災害の概論」を冒頭で講義させていただいた後に2024年1月1日に発生した能登半島地震で現地支援に参加した当委員会の委員による「実際の支援について」講義させていただきました。そして「実際の支援について」の後半ではグループに分かれて現地支援に参加した委員に直接質疑応答する場を設けました。研修後のアンケートでは「実際の現場の状況などを細かく知ることができて非常に良かったです」「疑問に思っていた内容をグループワークで直接聞くことができました」「経験者から実際の災害支援活動の話聞いて災害支援のイメージが膨らんだ」など意見をいただくことができました。大きな会場での質疑応答では質問しづらいことがありますが、小さなグループではその敷居は下がって質疑応答の良い場が設けられたと思います。

最後になりますが、本研修に参加いただいた皆様、ご参加いただきありがとうございました。この場を借りてお礼申し上げます。

2024年度も研修を開催いたしますので、お時間の許す方はご参加いただけると幸いです。開催が決まりましたら、当会ホームページで案内を掲載いたします。



「経験者から実際の災害支援活動の話聞いて
災害支援のイメージが膨らんだ」



災害支援対策委員会

小淵 匡 (沼田病院)

2024
03/02

災害支援対策委員会

編集後記



ぬくもり群馬2024秋号をご覧いただき、誠にありがとうございます。

今年の夏は記録的な暑さでした。9月に入っても残暑が続き、身体に堪えませんでした。

さて、本年8月31日に、伊勢崎市、本庄市、深谷市の三市合同の花火大会が開催されました。三市合同開催は初であり、伊勢崎市は合併20周年、本庄市は本庄早稲田駅と新坂東大橋開通20周年、深谷市は渋沢栄一翁新一万円紙幣発行と各事業を記念して開催されました。個人的に花火鑑賞が好きで、会場に足を運びました。打上前までは雨模様でしたが、打上時には雨が上がり、暑い夏の疲れを吹き飛ばすような迫力のある花火を間近で楽しむことができました。

次号は来年3月に発行予定です。どうぞお楽しみに。

広報委員会

原島 歩志 (老年病研究所附属病院)

星野 裕一 (鶴谷病院)

小淵 匡 (沼田病院)

小川 貴之 (桐生医師会)

長峰 雅史 (前橋赤十字病院)

長野 明日香 (高崎総合医療センター)

ぬくもり群馬2024秋号

令和6年10月2日発行 編集発行：広報委員会
一般社団法人 群馬県医療ソーシャルワーカー協会

ホームページはこちら！



【事務局】

〒377-0007 群馬県渋川市石原2404-37

おがた社会福祉士事務所内

Tel:080-2308-1599 Fax:0279-51-9884

